



総務省

Ministry of Internal Affairs  
and Communications

## 地域人材ネット

### 京都府綾部市「水源の里づくり」のアドバイスと実践

嘉田 良平 ( かなりょうへい )

四條畷学園大学・リハビリテーション学部 教授



#### ○ 登録者情報

所在地

大阪府大東市

## 略歴

〔略歴〕 京都大学大学院農業研究科修了。京都大学教授、農林水産省農林水産政策研究所政策研究調整官、アマタ(株)持続可能経済研究所代表などを経て、2014年より現職。専門は農政学、環境経済学、食品安全論。綾部市の水源の里条例(過疎・高齢化が著しく、存続が危ぶまれる集落の再生に向けた条例)の制定に関わって、課題把握から集落の意見調整、制度の内容に結びつくアドバイスに携わる。また、条例制定から10年を迎えた昨年度は、10年の振り返りと今後の可能性と再生の方向を探る集落の取組に参加。全国水源の里シンポジウムのコーディネーター、アドバイザーも務める。平成18年度 水源の里を考える会(全6回開催)コーディネーター

平成28年度 水源の里を考える会(全6回開催)座長、全国水源の里シンポジウム パネルディスカッションコーディネーター。〔受賞歴〕 昭和55年度日本農業経済学会賞(昭和55年4月、日本農業経済学会)； 第7回NIRA政策研究東畑精一記念賞(平成3年7月、総合研究開発機構)； 第1回湖の魂賞(Diwa ng Lawa Award) (平成25年10月、フィリピン政府)

## 著書・論文等

主な著書には、『食と農のサバイバル戦略～リスク管理からの再生～』(昭和堂)、『食卓からの農業再生』(家の光協会)、『食品の安全性を考える』(日本放送協会出版)、『農政の転換』(有斐閣)などがある。

## ○ 京都府綾部市「水源の里づくり」のアドバイスと実践

### 取組の内容

綾部市の水源の里条例(過疎・高齢化が著しく、存続が危ぶまれる集落の再生に向けた条例)の制定に関わって、課題把握から集落の意見調整、制度の内容に結びつくアドバイスに携わる。また、条例制定から10年を迎えた昨年度は、10年の振り返りと今後の可能性と再生の方向を探る集落の取組に参加。全国水源の里シンポジウムのコーディネーター、アドバイザーも務める。

平成18年度 水源の里を考える会(全6回開催)コーディネーター

平成28年度 水源の里を考える会(全6回開催)座長  
全国水源の里シンポジウム パネルディスカッションコーディネーター

### 実績

これまで嘉田が深くかかわってきた「水源の里条例」に基づく取組の第1期(平成18年度～22年度の5年間)の取組の主な成果は次の通りであった。①定住促進(若者を中心として、5年間で9世帯25名が水源の里集落に定住した)。②綾部市からの定住支援補助金、促進住宅の建設支援により、さまざまな定住が推進された。③「古屋でがんばろう会」など、都市部からの応援ボランティア・グループとの提携によって、とちの実の特産品開発・販売などの成果をあげることができた。第2期(平成24年度～28年度)においては、水源の里のさらなる活性化が取り組まれてきた。地場特産品を生かした農産加工品の開発、農村体験(田植え、稲刈り)による都市農村交流の活性化など。

### 工夫した点や苦勞した点

・さまざまな努力にもかかわらず多くの集落で人口減少は続いており、地域再生は決して容易ではない。そんな中、どうすれば笑顔で明日を描けるのか、また都会の若者たちに農山村の実態を伝えかつ入り込んでもらえるのか、悩ましいところだと思う。

## ひとことPR

日本全体が人口縮小化に向かう中、綾部市におけるさまざまな取り組みはひとつの大きな挑戦として、またモデル的な存在として位置付けられるのではないかと考えている。とくに、医療・福祉の地域拠点システムづくり、あるいは農山村と都市との新たなつながりによる実践面において、これらの成果をぜひ全国発信できればと願っている。

## ○ 参考

### 取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

[戻る](#)